稲積病床ベース

病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況【集計結果（静岡県）】

《2014（平成26）年7月1日時点の医療機能別の病床数（稲積病床）》

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>高度急性期</th>
<th>急性期</th>
<th>回復期</th>
<th>慢性期</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一般病床</td>
<td>6,005</td>
<td>12,001</td>
<td>1,208</td>
<td>1,505</td>
<td>20,719</td>
</tr>
<tr>
<td>療養病床</td>
<td>0</td>
<td>54</td>
<td>1,373</td>
<td>7,637</td>
<td>9,064</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>6,005</td>
<td>12,055</td>
<td>2,581</td>
<td>9,142</td>
<td>29,783</td>
</tr>
<tr>
<td>構成比</td>
<td>20.2%</td>
<td>40.5%</td>
<td>8.7%</td>
<td>30.7%</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）集計対象9,866床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床が83床分あり、上表には含めていない。

《2015（平成27）年7月1日時点の医療機能別の病床数（稲積病床）》

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>高度急性期</th>
<th>急性期</th>
<th>回復期</th>
<th>慢性期</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一般病床</td>
<td>4,936</td>
<td>12,804</td>
<td>1,552</td>
<td>1,380</td>
<td>20,672</td>
</tr>
<tr>
<td>療養病床</td>
<td>0</td>
<td>11</td>
<td>1,622</td>
<td>8,559</td>
<td>10,192</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>4,936</td>
<td>12,815</td>
<td>3,174</td>
<td>9,939</td>
<td>30,864</td>
</tr>
<tr>
<td>構成比</td>
<td>16.0%</td>
<td>41.5%</td>
<td>10.3%</td>
<td>32.2%</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）集計対象30,985床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床が121床分あり、上表には含めていない。

(2014年と2015年の比較)

- 高度急性期の構成比が減少し、急性期、回復期、慢性期の構成比が増加した。
病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況【集計結果（賀茂医療圏）】

《2014（平成26）年7月1日時点の医療機能別の病床数（稼働病床）》

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>高度急性期</th>
<th>急性期</th>
<th>回復期</th>
<th>慢性期</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一般病床</td>
<td>0</td>
<td>318</td>
<td>49</td>
<td>84</td>
<td>451</td>
</tr>
<tr>
<td>療養病床</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>37</td>
<td>363</td>
<td>400</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>0</td>
<td>318</td>
<td>86</td>
<td>447</td>
<td>851</td>
</tr>
<tr>
<td>構成比</td>
<td>0.0%</td>
<td>37.4%</td>
<td>10.1%</td>
<td>52.5%</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(注)集計対象851床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床はない。

《2015（平成27）年7月1日時点の医療機能別の病床数（稼働病床）》

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>高度急性期</th>
<th>急性期</th>
<th>回復期</th>
<th>慢性期</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一般病床</td>
<td>8</td>
<td>275</td>
<td>70</td>
<td>48</td>
<td>401</td>
</tr>
<tr>
<td>療養病床</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>41</td>
<td>258</td>
<td>299</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>8</td>
<td>275</td>
<td>111</td>
<td>306</td>
<td>700</td>
</tr>
<tr>
<td>構成比</td>
<td>1.1%</td>
<td>39.3%</td>
<td>15.9%</td>
<td>43.7%</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(注)集計対象700床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床はない。

〈2014年と2015年の比較〉

・慢性期の構成比が減少し、高度急性期、急性期、回復期の構成比が増加した。

・平成27年6月20日、医療法人社団慈広会県南病院が廃止（許可病床 療養107床）したことにより、集計対象病床数が減少し、慢性期の病床であったことから、慢性期の構成比が減少した。（慢性期 107床減）

※各機能における50床以上の変動がある病院を参考に記載
病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況【集計結果（熱海伊東医療圏）】

《2014（平成26）年7月1日時点の医療機能別の病床数（稼働病床）》

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>高度急性期</th>
<th>急性期</th>
<th>回復期</th>
<th>病床数</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一般病床</td>
<td>116</td>
<td>488</td>
<td>90</td>
<td>62</td>
<td>756</td>
</tr>
<tr>
<td>療養病床</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>31</td>
<td>275</td>
<td>306</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>116</td>
<td>488</td>
<td>121</td>
<td>337</td>
<td>1,062</td>
</tr>
<tr>
<td>構成比</td>
<td>10.9%</td>
<td>46.0%</td>
<td>11.4%</td>
<td>31.7%</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）集計対象1,062床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床はない。

《2015（平成27）年7月1日時点の医療機能別の病床数（稼働病床）》

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>高度急性期</th>
<th>急性期</th>
<th>回復期</th>
<th>病床数</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一般病床</td>
<td>64</td>
<td>535</td>
<td>90</td>
<td>68</td>
<td>757</td>
</tr>
<tr>
<td>療養病床</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>31</td>
<td>264</td>
<td>295</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>64</td>
<td>535</td>
<td>121</td>
<td>332</td>
<td>1,052</td>
</tr>
<tr>
<td>構成比</td>
<td>6.1%</td>
<td>50.9%</td>
<td>11.5%</td>
<td>31.6%</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）集計対象1,052床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床はない。

〈2014年と2015年の比較〉

・高度急性期の構成比が減少し、急性期の構成比が増加した。

・回復期、慢性期の構成比は、ほぼ同じであった。

・国際医療福祉大学熱海病院が、「2014年：高度急性期 116床、急性期 116床、回復期 31床」から「2015年：高度急性期 4床、急性期 228床、回復期 31床」に変更（高度急性期 112床減、急性期 112床増）

※各機能における50床以上の変動がある病院を参考に記載
病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況【集計結果（駿東田方医療圏）】

《2014（平成26年）7月1日時点の医療機能別の病床数（稼働病床）》

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>高度急性期</th>
<th>急性期</th>
<th>回復期</th>
<th>慢性期</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一般病床</td>
<td>747</td>
<td>3,294</td>
<td>107</td>
<td>289</td>
<td>4,437</td>
</tr>
<tr>
<td>療養病床</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>303</td>
<td>1,577</td>
<td>1,591</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>747</td>
<td>3,294</td>
<td>410</td>
<td>1,866</td>
<td>6,028</td>
</tr>
<tr>
<td>構成比</td>
<td>12.4%</td>
<td>54.6%</td>
<td>6.8%</td>
<td>26.2%</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）集計対象8,029床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床が1床分あり、上表には含めていない。

《2015（平成27年）7月1日時点の医療機能別の病床数（稼働病床）》

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>高度急性期</th>
<th>急性期</th>
<th>回復期</th>
<th>慢性期</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一般病床</td>
<td>721</td>
<td>3,189</td>
<td>238</td>
<td>269</td>
<td>4,147</td>
</tr>
<tr>
<td>療養病床</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>413</td>
<td>1,664</td>
<td>2,077</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>721</td>
<td>3,189</td>
<td>651</td>
<td>1,933</td>
<td>6,494</td>
</tr>
<tr>
<td>構成比</td>
<td>11.1%</td>
<td>49.1%</td>
<td>10.0%</td>
<td>29.8%</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）集計対象6,508床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床が1床分あり、上表には含めていない。

＜2014年と2015年の比較＞

• 高度急性期、急性期の構成比が減少し、回復期、慢性期の構成比が増加した。

• 三島共立病院が、「2014年：急性期 54床、慢性期 30床」から「2015年：回復期 4床、慢性期 30床」に変更（急性期 54床減、慢性期 30床減、回復期 84床増）

• 中伊豆温泉病院が、「2014年：急性期 11床、回復期 137床」から「2015年：急性期 19床、回復期 14床」に変更（急性期 11床増、回復期 9床減）

• 伊豆慶友病院が、「2014年：急性期 55床、慢性期 47床」から「2015年：回復期 55床、慢性期 47床」に変更（急性期 55床減、回復期 55床増）

• 岡村記念病院が、「2014年：急性期 65床」から「2015年：高度急性期 65床」に変更（急性期 65床減、高度急性期 65床増）

• 静岡医療センターが、「2014年：高度急性期 100床、急性期 280床」から「2015年：高度急性期 100床、急性期 280床」に変更（高度急性期 100床減、急性期 280床減）

※各機能における50床以上の変動がある病院を参考に記載

• 2014年未反映であった富士山麓病院が、2015年は反映されている。（慢性期16床）

• 2014年未反映であった長岡リハビリテーションセンターが、2015年は反映されている。（回復期11床）

• 2014年未反映であった中島病院が、2015年は反映されている。（慢性期80床）

• 2014年未反映であった東条病院が、2015年は反映されている。（慢性期54床）

• 2014年未反映であった伊豆函南セントラル病院が、2015年は反映されている。（慢性期85床）

• 2014年未反映であった池田病院が、2015年は反映されている。（慢性期37床）
病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況【集計結果（富士医療圏）】

（2014年と2015年の比較）

・急性期、慢性期の構成比が減少し、高度急性期、回復期の構成比が増加した。

・富士脳障害研究所附属病院が、「2014年：急性期 80床、回復期 45床、慢性期 35床」から
「2015年：高度急性期 40床、急性期 40床、回復期 45床、慢性期 35床」に変更
（急性期 40床減、高度急性期 40床増）

・新富士病院が、「2014年：慢性期 202床」から「回復期 52床、慢性期 154床」に変更（慢性期
48床減、回復期 52床増）

・富士いきいき病院が、「2014年：回復期 101床、慢性期 46床」から「2015年：回復期 144床、慢
性期 53床」に変更（回復期 43床増、慢性期 7床増）

※各機能における50床以上の変動がある病院を参考に記載
（富士医療圏においては、増減理由に関わる40床以上の変動がある病院も参考に記載）

・2014年未反映であった共立蒲原総合病院が、2015年は反映されている。
（急性期 106床、回復期 37床、慢性期92床）
病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況【集計結果（静岡医療圏）】

《2014（平成26）年7月1日時点の医療機能別の病床数（稼働病床）》

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能</th>
<th>一般病床</th>
<th>療養病床</th>
<th>合計</th>
<th>構成比</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>高度急性期</td>
<td>2,369</td>
<td>0</td>
<td>2,369</td>
<td>40.8%</td>
</tr>
<tr>
<td>急性期</td>
<td>1,309</td>
<td>0</td>
<td>1,309</td>
<td>22.5%</td>
</tr>
<tr>
<td>回復期</td>
<td>166</td>
<td>283</td>
<td>449</td>
<td>7.7%</td>
</tr>
<tr>
<td>慢性期</td>
<td>437</td>
<td>1,245</td>
<td>1,682</td>
<td>29.0%</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>4,281</td>
<td>1,528</td>
<td>5,809</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（単位：床、％）

（注）集計対象5,891床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床が82床分あり、上表には含めていない。

《2015（平成27）年7月1日時点の医療機能別の病床数（稼働病床）》

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能</th>
<th>一般病床</th>
<th>療養病床</th>
<th>合計</th>
<th>構成比</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>高度急性期</td>
<td>1,610</td>
<td>0</td>
<td>1,610</td>
<td>26.7%</td>
</tr>
<tr>
<td>急性期</td>
<td>1,885</td>
<td>0</td>
<td>1,885</td>
<td>31.2%</td>
</tr>
<tr>
<td>回復期</td>
<td>252</td>
<td>267</td>
<td>519</td>
<td>8.6%</td>
</tr>
<tr>
<td>慢性期</td>
<td>444</td>
<td>1,583</td>
<td>2,027</td>
<td>33.6%</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>4,191</td>
<td>1,850</td>
<td>6,041</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（単位：床、％）

（注）集計対象6,099床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床が58床分あり、上表には含めていない。

＜2014年と2015年の比較＞

・高度急性期の構成比が減少し、急性期、回復期、慢性期の構成比が増加した。

・静岡赤十字病院が、「2014年：高度急性期 417床」から「2015年：高度急性期 191床、急性期 226床」に変更（高度急性期 226床減、急性期 226床増）

・静岡済生会総合病院が、「2014年：高度急性期 523床」から「2015年：高度急性期 50床、急性期 456床」に変更（高度急性期 473床減、急性期 456床増）

・静岡市立清水病院が、「2014年：急性期 446床、回復期 44床」から「2015年：高度急性期 6床、急性期 383床、回復期 77床」に変更（急性期 63床減、回復期 33床増、高度急性期 6床増）

※各機能における50床以上の変動がある病院を参考に記載

・2014年未反映であった富沢病院が、2015年は反映されている。（慢性期244床）
### 病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況【集計結果（志太榛原医療圏）】

#### 〈2014年（平成26年）7月1日時点の医療機能別の病床数（稼働病床）〉

- **一般病床**
  - 高度急性期: 14床
  - 急性期: 1,956床
  - 回復期: 242床
  - 慢性期: 0床
  - 合計: 2,212床
- **療養病床**
  - 高度急性期: 0床
  - 急性期: 0床
  - 回復期: 124床
  - 慢性期: 894床
  - 合計: 1,018床

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能別</th>
<th>一般病床 (床)</th>
<th>療養病床 (床)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>高度急性期</td>
<td>14</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>急性期</td>
<td>1,956</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>回復期</td>
<td>242</td>
<td>124</td>
</tr>
<tr>
<td>慢性期</td>
<td>0</td>
<td>894</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>2,212</td>
<td>1,018</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能別</th>
<th>一般病床 (構成比%)</th>
<th>療養病床 (構成比%)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>高度急性期</td>
<td>0.4%</td>
<td>0%</td>
</tr>
<tr>
<td>急性期</td>
<td>60.6%</td>
<td>0%</td>
</tr>
<tr>
<td>回復期</td>
<td>11.3%</td>
<td>11.3%</td>
</tr>
<tr>
<td>慢性期</td>
<td>27.7%</td>
<td>11.3%</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>100.0%</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）集計対象3,230床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床はない。

#### 〈2015年（平成27年）7月1日時点の医療機能別の病床数（稼働病床）〉

- **一般病床**
  - 高度急性期: 243床
  - 急性期: 1,826床
  - 回復期: 241床
  - 慢性期: 0床
  - 合計: 2,310床
- **療養病床**
  - 高度急性期: 0床
  - 急性期: 3床
  - 回復期: 125床
  - 慢性期: 913床
  - 合計: 1,041床

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能別</th>
<th>一般病床 (床)</th>
<th>療養病床 (床)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>高度急性期</td>
<td>243</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>急性期</td>
<td>1,826</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>回復期</td>
<td>241</td>
<td>125</td>
</tr>
<tr>
<td>慢性期</td>
<td>0</td>
<td>913</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>2,310</td>
<td>1,041</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能別</th>
<th>一般病床 (構成比%)</th>
<th>療養病床 (構成比%)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>高度急性期</td>
<td>7.3%</td>
<td>0%</td>
</tr>
<tr>
<td>急性期</td>
<td>54.6%</td>
<td>0.3%</td>
</tr>
<tr>
<td>回復期</td>
<td>10.9%</td>
<td>12.0%</td>
</tr>
<tr>
<td>慢性期</td>
<td>27.7%</td>
<td>87.7%</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>100.0%</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）集計対象3,351床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床はない。

### 〈2014年と2015年の比較〉

- 急性期、回復期、慢性期の構成比が減少し、高度急性期の構成比が増加した。
- 焼津市立総合病院が、「2014年: 急性期 471床」から「2015年: 高度急性期 37床、急性期 434床」に変更（急性期 37床減、高度急性期 37床増）
- 藤枝市立総合病院が、「2014年: 高度急性期 14床、急性期 498床」から「2015年: 高度急性期 206床、急性期 325床」に変更（急性期 173床減、高度急性期 192床増）
- 榛原総合病院が、「2014年: 急性期 147床、慢性期 42床」から「2015年: 急性期 197床、慢性期 42床」に変更（急性期 50床増）

※各機能における50床以上の変動がある病院を参考に記載
(志太榛原医療圏においては、増減理由に関わる30床以上の変動がある病院も参考に記載)
稼働病床ベース
病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況【集計結果（中東遠医療圏）】

《2014（平成26）年7月1日時点の医療機能別の病床数（稼働病床）》

| 病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況【集計結果（中東遠医療圏）】 | 高度急性期 | 急性期 | 回復期 | 慢性期 | 計
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一般病床</td>
<td>418</td>
<td>1,026</td>
<td>217</td>
<td>3</td>
<td>1,664</td>
</tr>
<tr>
<td>療養病床</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>166</td>
<td>628</td>
<td>794</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>418</td>
<td>1,026</td>
<td>383</td>
<td>631</td>
<td>2,458</td>
</tr>
<tr>
<td>構成比</td>
<td>17.0%</td>
<td>41.7%</td>
<td>15.6%</td>
<td>25.7%</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）集計対象2,458床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床はない。

《2015（平成27）年7月1日時点の医療機能別の病床数（稼働病床）》

| 病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況【集計結果（中東遠医療圏）】 | 高度急性期 | 急性期 | 回復期 | 慢性期 | 計
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一般病床</td>
<td>288</td>
<td>1,138</td>
<td>213</td>
<td>0</td>
<td>1,639</td>
</tr>
<tr>
<td>療養病床</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>136</td>
<td>1,016</td>
<td>1,152</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>288</td>
<td>1,138</td>
<td>349</td>
<td>1,016</td>
<td>2,791</td>
</tr>
<tr>
<td>構成比</td>
<td>10.3%</td>
<td>40.8%</td>
<td>12.5%</td>
<td>36.4%</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）集計対象2,791床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床はない。

〈2014年と2015年の比較〉

・高度急性期、急性期、回復期の構成比が減少し、慢性期の構成比が増加した。

・磐南中央病院が、「2014年:慢性期 100床」から「2015年:慢性期 50床」に変更（慢性期 50床減）

・豊田えいせい病院が、「2014年:慢性期 180床」から「2015年:回復期 60床、慢性期 120床」に変更（慢性期 60床減、回復期 60床増）

・中東遠総合医療センターが、「2014年:高度急性期 406床、急性期 90床」から「2015年:高度急性期 260床、急性期 234床」に変更（高度急性期 146床減、急性期 144床増）

・払井市立聖隷払井市民病院が、「2014年:回復期 50床」から「2015年:回復期 50床、慢性期 50床」に変更（慢性期 50床増）

※各機能における50床以上の変動がある病院を参考に記載

・掛川東病院（平成27年3月18日240床使用許可）が、2015年から追加となった。（回復期 30床、慢性期 68床）

・2014年未反映であった払井みつかわ病院が、2015年は反映されている。（慢性期 260床）
### 病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況【集計結果（西部医療圏）】

#### 稼働病床ベース

**《2014（平成26）年7月1日時点の医療機能別の病床数（稼働病床）》**

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>高度急性期</th>
<th>急性期</th>
<th>回復期</th>
<th>慢性期</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一般病床</td>
<td>2,333</td>
<td>2,203</td>
<td>238</td>
<td>448</td>
<td>5,222</td>
</tr>
<tr>
<td>療養病床</td>
<td>0</td>
<td>54</td>
<td>235</td>
<td>2,349</td>
<td>2,638</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>2,333</td>
<td>2,257</td>
<td>473</td>
<td>2,797</td>
<td>7,860</td>
</tr>
<tr>
<td>構成比</td>
<td>29.7%</td>
<td>28.7%</td>
<td>6.0%</td>
<td>35.6%</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(注)集計対象7,860床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床はない。

#### 《2015（平成27）年7月1日時点の医療機能別の病床数（稼働病床）》

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>高度急性期</th>
<th>急性期</th>
<th>回復期</th>
<th>慢性期</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一般病床</td>
<td>1,936</td>
<td>2,454</td>
<td>310</td>
<td>421</td>
<td>5,121</td>
</tr>
<tr>
<td>療養病床</td>
<td>0</td>
<td>8</td>
<td>372</td>
<td>2,173</td>
<td>2,553</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>1,936</td>
<td>2,462</td>
<td>682</td>
<td>2,594</td>
<td>7,674</td>
</tr>
<tr>
<td>構成比</td>
<td>25.2%</td>
<td>32.1%</td>
<td>8.9%</td>
<td>33.8%</td>
<td>100.0%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(注)集計対象7,723床のうち、現時点の医療機能について未選択の病床が49床あり、上表には含めていない。

#### 〈2014年と2015年の比較〉

- 高度急性期、慢性期の構成比が減少し、急性期、回復期の構成比が増加した。
- 遠州病院が、「2014年：高度急性期340床、回復期60床」から「2015年：高度急性期236床、急性期104床、回復期60床」に変更（高度急性期104床減、急性期104床増）
- 聖隷浜松病院が、「2014年：高度急性期744床」から「2015年：高度急性期458床、急性期286床」に変更（高度急性期286床減、急性期286床増）
- 浜松医療センターが、「2014年：高度急性期42床、急性期558床」から「2015年：高度急性期253床、急性期347床」に変更（急性期211床減、高度急性期211床増）
- 聖隷三方原病院が、「2014年：高度急性期613床、急性期27床、慢性期170床」から「2015年：高度急性期395床、急性期245床、慢性期170床」に変更（高度急性期218床減、急性期218床増）
- 北斗わかば病院が、「2014年：慢性期142床」から「2015年：回復期142床」に変更（慢性期142床減、回復期142床増）
- 平成27年4月30日、三澤病院（許可病床療養35床）廃止（慢性期35床減）

### 《2014年と2015年の比較》

- 高度急性期、慢性期の構成比が減少し、急性期、回復期の構成比が増加した。
- 近州病院が、「2014年：高度急性期340床、回復期60床」から「2015年：高度急性期236床、急性期104床、回復期60床」に変更（高度急性期104床減、急性期104床増）
- 聖隷浜松病院が、「2014年：高度急性期744床」から「2015年：高度急性期458床、急性期286床」に変更（高度急性期286床減、急性期286床増）
- 浜松医療センターが、「2014年：高度急性期42床、急性期558床」から「2015年：高度急性期253床、急性期347床」に変更（急性期211床減、高度急性期211床増）
- 聖隷三方原病院が、「2014年：高度急性期613床、急性期27床、慢性期170床」から「2015年：高度急性期395床、急性期245床、慢性期170床」に変更（高度急性期218床減、急性期218床増）
- 北斗わかば病院が、「2014年：慢性期142床」から「2015年：回復期142床」に変更（慢性期142床減、回復期142床増）
- 平成27年4月30日、三澤病院（許可病床療養35床）廃止（慢性期35床減）